



H30スローガン
「協働」



平成30年 7月25日(水)
発行所: 中部教育事務所



日本の
ひなた
宮崎県

「形式」ではなく「支援の質」で勝負し、
学校や先生方のパフォーマンス向上のために頑張ります!

支援(計画)訪問前期及び重点支援訪問1回目が終了!

本事務所管内の12市町村の各学校において、5月の下旬から、『支援(計画)訪問』及び『重点支援訪問』が始まり、7月13日をもって支援訪問の前期の全てが終了しました。また、重点支援訪問においては、21校の指定校の1回目の訪問が終了しました。(内1校は2回目終了)

重点支援訪問 計21校、支援(計画)訪問 計37校

梅雨入りし、暑い中ではありましたが、児童・生徒、先生方と共に汗を流しながら研修等にも参加させていただき、ありがとうございました。各校とも校長先生を中心に、先生方が一丸となって子供たちの健全育成に真摯に取り組まれておられました。ある学校では、校長先生が次のような言葉を先生方に贈っておられ、子供たちの主体的な態度の育成を目指す熱い思いが学校中に広がっていました。

「子どもは、信頼されることなくただ禁止ばかりがされたり矯正ばかりがされたりすると、結局は大人を信頼することもなくなって、むしろ大人の中から隠れたところで、自分の欲望を短絡的に叶えようとするようになるものだ。それに対して、人間というのは、信頼されてしまうと、どうしてもそれを裏切りにくい。それに応えたい、と、思ってしまうものだ。だから教育においてこの「信頼」というのが重要なのだ。」

オットー・フリトリッヒ ポルノウ著:『教育を支えるもの』より



重点支援訪問

「つなぎの期間」の取組を推進します。

本事務所では、重点支援訪問と重点支援訪問の間(いわゆる「つなぎの期間」)における学校の主体的な取組を後押しします。1回目の訪問時のフィードバックの際に明らかになった課題について、管理職のフィードバックをしていただき、日々の授業の実践の中で改善に取り組んでいただきたいと思います。児童・生徒が、「分かった!できた!」と思える授業を心がけ、日々の授業改善をお願いします。次回の重点支援訪問もどうぞよろしくをお願いします。



— 授業改善 1年間の流れ —

- 4月 管理職等とのミーティング
 - 支援訪問の実施時期
 - 支援内容(どんな教科で、誰を、どんな形で……)
 - 授業改善の方向性の確認(4つのチェックポイント等)
- 5月~7月 第1回支援訪問
 - 授業参観 → 授業者等へのフィードバック(課題の明確化)
 - 管理職等とのミーティング

校長を中心とした全職員により学力向上(授業改善)への取組
- 8月~12月 第2回支援訪問
 - 授業参観 → 授業者等へのフィードバック(改善状況の確認)
 - 管理職等とのミーティング

校長を中心とした全職員により学力向上(授業改善)への取組
- 1月~3月 第3回支援訪問
 - 授業参観 → 授業者等へのフィードバック(改善状況の確認)
 - 管理職等とのミーティング
 - 1年間の学力向上に係る成果と課題の明確化

校長を中心とした全職員により学力向上(授業改善)への取組

次年度における授業改善計画の確認